

1868 2018

肥前さが
幕末維新博覧会
Hizen Saga Bakumatsu-Meiji
Restoration Expo

■エヴァのワンシーン？

まずは同博覧会のメインパビリオンである「幕末維新記念館」を目指す。リニューアルされた県立図書館前の広場「こころざしの本場」を通る。緑が鮮やかな芝生の上では子どもたちが走り回っている。その背景にある王冠のようなインパクトのある外観の建物・市村記念体育館の中に「幕末維新記念館」がある。館の正面には大きな大砲が鎮座している。チケット売場で同館のほか「葉隠みらい館」「リアル弘道館」に入場できる「チケット3」を購入。1200円払う（残額1780円）。ここでもらった地図をもとに歩いていく。

同館では幕末維新期の佐賀の偉業や偉人などを最新の映像技術等で紹介する。展示空間を自由に見て回るのではなく、9分ごとに一回となつて体験する方式。一度入ると約40分外に出ることができないので注意が必要だ。トイレなど事前に必要なことを終わらせて、いざ中へ。最初は第一場「幕末維新」体感シアターだ。床から壁一面に広がる大型ラウンドスクリーンで150年前の佐賀の情勢をダイナミックに紹介する。視界全部を覆うテンポ良い映像に圧倒される。続く廊下の床にはところどころスポットライトが当たっている。その光の中に入ると、なにやらささやき声が聞こえてくる。偉人たちの内面に入るよ



大迫力の映像が楽しめる＝幕末維新記念館



県立図書館前にできた芝生広場

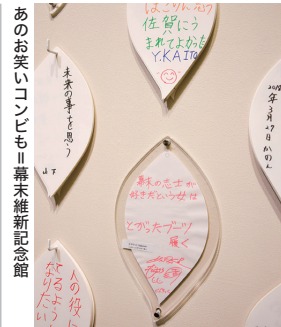


ステージでは期間中 イベント盛りだくさん

①

幕末維新記念館
Bakumatsu-Meiji Restoration Memorial Museum

住 佐賀市城内 2-1-35 (市村記念体育館)
☎ 0952・37・0181 時 9:30～18:00
休 なし ¥800、団体 (20人以上) ¥600
※高校生以下および障がい者手帳・療育手帳などを持参の方は介助者 1 人含め無料。チケット 3 (3 館共通券) ¥1,200。フリーパス券 ¥3,000



あのお笑いコンビも「幕末維新記念館」



まるでエヴァの 1 シーン＝幕末維新記念館

うな不思議な感覚だった。次は第二場「技」からくり劇場。当時の佐賀の先進的な技を生み出した技術者たちと、彼らを導いた第10代佐賀藩主・鍋島直正の思いを生身のパフォーマーによる動きと、スクリーンに映し出される映像や音が一体となったクロスメディアショーによって表現している。パフォーマーの黒子さんが舞台の表と裏を所狭しと駆け回る。身分を超えた人間ドラマが心を打つ。

第三場「人」賢人ラウンドシアターは、幕末の佐賀に生まれ、鍋島直正のもとでその才を鍛えられ、明治新政府で活躍した賢人たちが今、一堂に会したら…という夢の空間をモニター連動型のラウンドシアターで実現する。7つの大型スクリーンに次々に現れる7賢人たち。アニメ「エヴァンゲリオン」の黒幕・ゼーレの会議のようであつたと怖かったが、人間くさい面白い話もあり、なんだか、その存在を身近に感じた。

最後の第四場「志」ことのは結びゾーンでは、来場者のメッセージが書かれた桶の葉をモチーフとした「ことのは」が飾られている。県出身の著名人のものもあり、それぞれの「維新観」が伝わってきて面白い。第四場を出ると、佐賀県の物産を紹介するスペースもある。佐賀の幕末維新について基本的な知識を得た後、マップを見ながら最寄りのスポットを探す。幕末維新館の南側道路を西にすこし歩くと「万部島」がある。水路にかかった石橋

特集

モテモテさが的 維新博ぶらぶら

平日
2980円で
満喫!!

その時、佐賀は世界を見ていた。そして今、佐賀は未来を見ている。明治維新150年を記念した「肥前さが幕末維新博覧会」がいよいよスタート！明治維新の鍵を握っていた佐賀の歴史や文化、アート、食を楽しむ企画やイベントが来年1月14日まで続く。今回は「モテモテさが的維新博ぶらぶら」と題し、平日2980円でどれだけ満喫できるのかチャレンジしてみた。



平日
2980円で
満喫!!

モテモテさがの維新博ぶらぶら

1868 2018

肥前さが
幕末維新博覧会
Hizen Saga Bakumatsu-Meiji
Restoration Expo

③ ながさき幕末維新館

住 佐賀市中の小路 2-5 (佐賀玉屋 本館 1F) ☎ 095・895・2762 (長崎県 文化振興課) 時 10:00 ~ 18:30 休 佐賀玉屋の店休日に準ずる ¥ 無料



日本の2大菓子メーカー創業者が並ぶ



「さが偉人ラリー」アプリを使うと特製フレームで自撮りできるが、難しい...



森永太郎像 エプロン姿が渋い

② 徴古館

住 佐賀市松原 2-5-22 ☎ 0952・23・4200 時 9:30 ~ 18:00 (博覧会期間中) 休 年末年始 ¥ 大人 ¥400、高校生以下無料 (※ いずれも博覧会期間中の特別料金)



ながさき幕末維新館



上野彦馬が歴史を紹介＝ながさき幕末維新館



こんな感じで龍馬と2ショットもⅡながさき幕末維新館

正面には巨大な「佐賀の役招魂碑」がある。同役で戦死したり処刑された216柱を弔うために明治18年に建立され大正9年にこの地に移設されたという。先ほど幕末維新館で登場した江藤新平、島義勇も祀られている。歴史的人物の痕跡がこんなに近くにあるなんて！入り口に戻ると左手に石塔がたくさん並んでいる。「万部塔」といわれる、佐賀藩の代々の藩主または嫡男が願主となって「国家安泰・万民安楽」を祈願しての法華経一万部を読誦したことを記念してつくったものだという。ということとは：直正のものもあるはず。探していると「天保四年」と刻まれた石塔があった。直正が藩主になったのが天保元年なので、この石塔かと思ったが願主の名前は「斉正」。あれっと思いついたところ、直正は隠居するまで「斉正」と名乗っていたという。つまり「直正」は公称としては明治4年に亡くなるまで、元服するまでの6年間のわずかな期間しか使っていなかったのだ。



直正が祀られている佐嘉神社



藩主たちの領民への愛情を伝える11基の万部塔＝万部島

「斉正」？「直正」？

を渡る。散ったばかりの桜の花びらによる「花筏」の中をカモが心地よさげに泳ぐ。中心地にこんな空間があるとは。

カモのんびりとⅡ万部島

龍馬と2ショット

中央大通り沿いを北上すると「中の小路」バス停の前にある佐賀玉屋1階に「ながさき幕末維新館」がある。長崎・佐賀を舞台に志士たちが新しい知識を学び、日本の近代化を成し遂げていったその活躍を紹介している。ナビゲーターは日本写真界の祖・上野彦馬。映像とグラフィックで詳しく解説する。挑戦してほしいのが「上野撮影局で記念写真！」コーナー。フルベッキ写真の中に紛れ込んだり、坂本龍馬とのツーショットが撮れる。飲

がある。本殿の右側にぼつんとあるのは「松根社」。直正に仕えた古川松根を祀っている。先ごろ出版され話題となった植松三十里さんによる直正が主人公の小説「かちがらす幕末を読みきった男」を読んだ人なら深い感慨を抱かずにはいられない。松根が書画、和歌、雅楽に優れていたことから、「礼道、芸道、学問の神」として多くの参拝者の崇敬を集めているという。

佐嘉神社の隣には「徴古館」があり、鍋島家伝来の貴重な品々が展示されている。この日は展示替えのため一部展示しか見られなかったが、幕末期の蒸気車や蒸気船のオリジナル雛形が展示されていた。直正も見た蒸気車の雛形には傷がついていて歴史を感じさせた。徴古館の敷地内には藩校・弘道館跡の石碑が建っている。かつては県警本部まで同校敷地だったという。

店先に直正の書状

かつての物流拠点・十間堀の横を通る。ちよつと喉が渇いてきた。マップの裏側には維新博入場券で受けられるいろんなサービスが書いてある。呉服元町の上林茶店で「煎茶の提供」をしてくれるという。早速、お店に向う。少し温度を冷ました、うま味たっぷりのお茶で一息つく。同店は天正年間に京都で創業。明治初年に鍋島家の招きで佐賀に移住

み会の前にみんなで撮ったり、SNSにアップしたりして楽しもう。中央大通りを歩いていると、ところどころに銅像が並んでいる。さまざまな困難を乗り越え夢と志と情熱で新しい時代を切り開いた佐賀ゆかりの偉人の等身大のモニュメント25体が設置されている。白山アーケードの反対側にはスーツ姿とエプロン姿の男性2体。グリコの江崎利一と森永製菓の森永太郎だ。説明板のQRコードから「さが偉人ラリー」アプリをダウンロード。同アプリは偉人モニュメントと幕末維新記念館を巡りながら25のミッションをクリアしていくもの。偉人と一緒に特別なフォトフレームで写真が撮れたり、偉人クイズを楽しむことができる。クリアすると抽選で豪華賞品をプレゼント！さつそく江崎さんとの2ショットに挑戦するが自撮りは難しい。銅像に密着しながら試行錯誤していると、女子大生が不審な目で通り過ぎていった。

平日
2980円
で満席!!

モテモテさがの維新博ぶらぶら

1868 2018

肥前さが
幕末維新博覧会
Hizen Saga Bakumatsu-Meiji
Restoration Expo

⑥



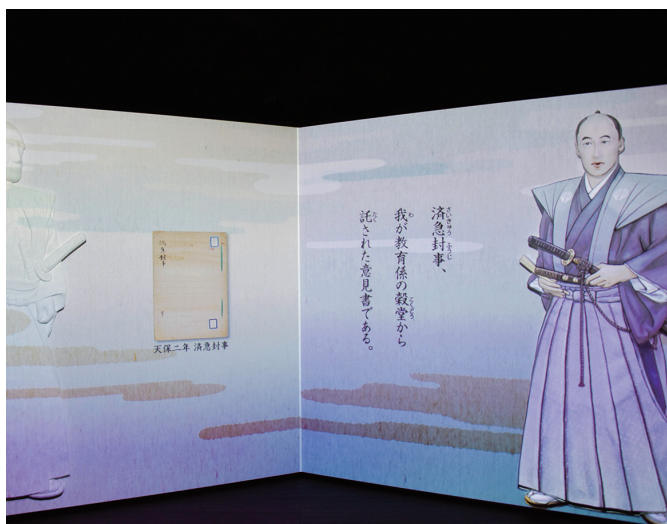
リアル弘道館

Real Kōdōkan

住 佐賀市柳町 3-15 (旧古賀家) ☎ 0952・37・0181

時 9:30 ~ 18:00 休 なし 料 ¥400、団体 (20人以上) ¥300

※高校生以下および障がい者手帳・療育手帳などを持参の方は
介助者1人含め無料。チケット3 (3館共通券) ¥1,200。フリー
パス券 ¥3,000



プロジェクションマッピングのリアル直正が解説=リアル弘道館

⑤



葉隠みらい館

Hagakure Miraikan

住 佐賀市柳町 3-12 (旧三省銀行) ☎ 0952・37・0181

時 9:30 ~ 18:00 休 なし 料 ¥400、団体 (20人以上)

¥300 ※高校生以下および障がい者手帳・療育手帳などを
持参の方は介助者1人含め無料。チケット3 (3館共通券)
¥1,200 フリーパス券 ¥3,000



著名人に影響を与えた言葉=葉隠みらい館



白いボードの上にイラストが映写される=リアル弘道館



弘道館での生活を劇画タッチで=リアル弘道館



自分にあった葉隠の言葉と出会う=葉隠みらい館

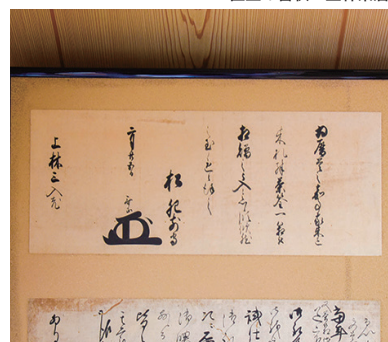
100円のライスでもOK

さて、そろそろ昼ごはん。再びマップの裏を見ると、「ぎょうざ屋」で「水餃子1個サービ
ス」と書いてある。中央マーケットへ入る。
メニューで一番安いのは「飯100円」。お
店の人に、ご飯だけでも水餃子1個つけてく
れるか、と聞くと、なんとOKの返事。太っ
腹!! それだけでは腹が持たないので、ぎょう
ざ定食を注文。餃子10個だが1個追加で11個。
焼き餃子6、水餃子5にご飯と漬物、デザー
トが付いて750円(残り予算1030円)

したという。お店の人が歴代佐賀藩主から上
林家に送られた書状が店内に飾られていると
教えてくれた。早速見てみると、「斉正」の
花押(サイン)らしきものが。こんなところ
にも幕末維新の痕跡がある。興奮していると、
お店の人が、近くの願正寺に副島種臣の書が
あることを教えてくれた。願正寺と言えば、
お寺の多いこの地域でも、ひと際大きな本堂
がそびえている。一説には九州最大級の本堂
建築という。本堂脇のインターホンを鳴らす
と、お寺の人が対応してくれた。副島の書は
2点あるという。まずは本堂へ。高い天井と
その壮麗な装飾に圧倒される。副島の額は正
面右側に掲げられている。気迫を感じさせる
筆運びだ。続いて本堂西側の座敷へ。この
書は文字が自由に踊っていて楽しい気分が伝
わってくる。副島は一時、この寺に居住し
ていたという。

踊るような副島種臣の書=願正寺

直正の書状=上林茶店



オランダハウスのカフェ「SUGAR ROAD MARKET」



呉服元町にあるオランダハウス



水餃子1個サービス!! = ぎょうざ屋

④ オランダハウス

住 佐賀市呉服元町 (旧佐賀銀行呉服町

支店) ☎ 0952・41・8341 時 10:30 ~

20:00 (10 ~ 1月は18:30) 休 なし

料 入場無料

今の自分にあった葉隠は?

せっかくなのでクリニックを意識しながら東
へ。柳町界隈に向う。旧三省銀行にある「葉
隠みらい館」は武士の心得を表した佐賀発祥
の「葉隠」を、現代のビジネスや日常生活に
役立つ「心構え」として分かりやすく紹介し
ている。葉隠に影響を受けた著名人のメッ

だ。もちもちの皮にジューシーなあん。青森
から取り寄せたニンニクは手間暇かけて処理
しているの、深い味わいはそのままに臭い
はほとんどない。デザートのいちごは県内農
家から直接仕入れた逸品。爽やかな酸味が楽
しめる。
呉服元町の通りを南下するとオレンジ色の
旗が印象的な「オランダハウス」(旧佐賀銀行
呉服町支店)が見えてくる。洋風建築の中に
入ると鮮やかなオレンジの壁。中にはオラン
ダのデザイナーと有田の陶磁器メーカーのコ
ラボレーション作品 (2016) などが展示。
ミュージアムショップでは、オランダデザイ
ンのプロダクトやオランダ雑誌などが購入で
きる。またオランダ人クリエイターが創作活
動を行う滞在制作のスタジオがある。道を挟
んだ向かい側では、ストロップワッフルなど
のオランダの伝統菓子を販売。水辺テラスで
は土曜日に限り乗船体験などのイベントを実
施するという。クリニック活用の先進国でもあ
るオランダ。その考え方を学ぼうという趣向
だ。

セージを障子風のスクリーンに投影したり、
書道・華道をヴァーチャル体験するプログ
ラムがあったりと、楽しめる企画が用意され
ている。秀逸だったのが「ディスカバー my
HAGAKURE」。古道具の引き出しを開けると
設問があり、選んだ答えに沿って、次の引き
出しを開ける。最後には、今の自分にぴった
りの「葉隠」の言葉にたどり着くという趣向
だ。和風建築の空間ともマッチして楽しい。
頂いたのは「何事も願ひさへすれば、願ひ出
すものなり」という言葉。なんだか勇気づけ
られる。
次は隣接する旧古賀家にある「リアル弘道
館」。近代日本の礎を築いた偉人たちの輩出
した藩校「弘道館」を紹介し、その学びを
体感する。入口で無料の音声ガイドを受け
取る。各コーナーに行くと自動的に解説が
流れ出す。まずは直正らが弘道館を作った由
来を伝えてくれるプロジェクトマップ。
マンガ風に設えられたグラフィックパネ
ルに近づくと寮生活や藩主とのディベートな
ど、当時の弘道館の特徴的な学びシステムが
紹介される。「おもしろ探検マップ」では大講
堂や武芸場、厨房なども備えていた敷地面積
5400坪の弘道館を探索する。テーブルの上
の平面図に白いボードを置くと、当時の様
子がイラストで蘇る。続いて論語を読み上げ
る「素読」をデジタル判定するコーナーに挑
戦。読み上げた声小さかったらしく、「心に
迷いがあるぞ失敗を恐れるな!」と叱られて
しまった。柳町の2館は伝統建築と最新の

平日
2980円で
満喫!!

モテモテさが的維新博ぶらぶら

1868 2018

肥前さが
幕末維新博覧会
Hizen Saga Bakumatsu-Meiji
Restoration Expo

展示技術がうまく融合していて、何度行っても楽しめそうだ。

大きな楠の木が印象的な神社脇の道を通り、再びクリーク沿いに歩く。西に向った流れが90度曲がり南下する。川のところどころにかかる石橋が素朴で良い。まっすぐな道に飽きたので、材木橋から裏道に入る。しばらく行くと真つ赤な建物が目に入った。軒先には天狗の絵に「アカカベ」の文字。住民の人に聞いたところ、元々は「アカカベ」という酒蔵だったという。今は酒類の販売だけをやっているそうだ。昔はそばに流れる川で物資を運んでいたらしい。

■大隈の肉声を聞く

石橋を渡って元の川沿いに戻る。しばらくして右折すると「大隈重信記念館」がある。総理大臣を2度務め、早稲田大学を創設したことで知られる大隈重信。同館には大隈の功績に関する映像や貴重な資料を展示している。入場料は通常300円だが、維新博入場券を持っていると200円(残り予算830円)に。大隈のどつしりして動かざる姿をイメージして建てられたという同館は建築家・今井兼次の名作であり国の登録有形文化財に指定されている。中に入ると階段の中腹に佇む赤いガウンが目に入ってくる。正面のステンドグラスから放たれる赤と青の光が印象的だ。展示で注目したいのは大隈の肉声演説。「であるのである」という有名な言い回しがな

佐賀の街を縦横に走るクリーク



自動車も通る石橋=材木町



「アカカベ」の看板=材木町



上からのステンドグラスの光が印象的=大隈重信記念館



田中久重の傑作「万年時計」佐賀城本丸歴史館



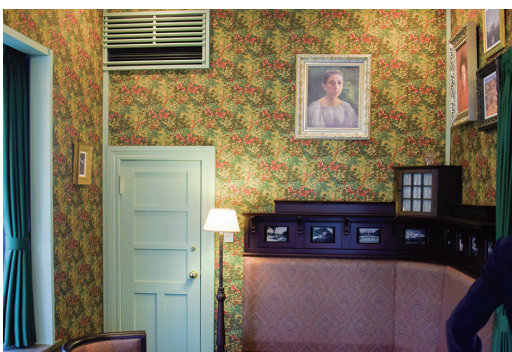
アンドロイドの地平アイ子さん=佐賀城本丸歴史館



直正時代から残る柱=佐賀城本丸歴史館



天窓から明るい陽光が射す=岡田三郎助アトリエ



壁紙が印象的な応接室=岡田三郎助アトリエ



岡田三郎助アトリエ



いわさきちひろ『赤い帽子の男の子』ちひろ美術館蔵

三岸節子「室内」一宮市三岸節子記念美術館蔵



⑨ はじまりはここから — 岡田三郎助と女性画家たち —

5月20日(日)※会期中無休(会場)佐賀県立美術館(2号展示室)《開館時間》9時30分~18時(料金)一般・大学生400円 ※共通券…一般・大学生600円、高校生以下及び障害者手帳をお持ちの方とその介助者1名は無料

岡田と教え子たちが“再会”



「岡田三郎助と女性画家たち」展=佐賀県立美術館

同アトリエの奥の一室は岡田が開設した画塾「女子洋画研究所」の教室。美術館ではアトリエ移築を記念し、「はじまりはここから」岡田三郎助と女性画家たち」を開催している。岡田から指導を受けた画家である、いわさきちひろや三岸節子らの作品を展示する。会場には岡田の作品も同時に並んでいるが、教え子にその画風を大きく受け継いだ作家は見当たらない。それぞれがそれぞれのスタイルをしつかり確立している。その事実だけで岡田の教育者としての考え方と力量が伝わってくる。女性への美術教育に心血を注いだ

■それぞれのスタイルを

間も質素。直正の合理的な気風を伺わせる。

いよいよ最後の目的地、佐賀県立博物館・美術館へ。本丸歴史館から歩いていくとかわいらしい木造建築が目飛び込んできた。「岡田三郎助アトリエ」だ。岡田三郎助は佐賀出身の近代洋画の先駆者のひとり。同アトリエは明治41(1908)年から昭和14(1939)年まで岡田が創作活動を行った場所。今年4月に東京都渋谷区から現地に移築、公開された。この日は佐賀大学出身の女性画家による公開制作が行われていた。高い天窓から射す光がキャンバスを照らす。絵を描く姿そのものがアートのようだ。玄関からすぐの応接室は、岡田が過ごしていた当時の調度類を復原。花柄の壁紙が印象的だ。同アトリエは一般貸し出し可能。飲食もOK。面白いイベントができそうだ。

同アトリエの奥の一室は岡田が開設した画塾「女子洋画研究所」の教室。美術館ではアトリエ移築を記念し、「はじまりはここから」岡田三郎助と女性画家たち」を開催している。岡田から指導を受けた画家である、いわさきちひろや三岸節子らの作品を展示する。会場には岡田の作品も同時に並んでいるが、教え子にその画風を大きく受け継いだ作家は見当たらない。それぞれがそれぞれのスタイルをしつかり確立している。その事実だけで岡田の教育者としての考え方と力量が伝わってくる。女性への美術教育に心血を注いだ

平日
2980円
満席!!

モテモテさがの維新博ぶらぶら

今回の精算 !!

維新博入場券 (チケット 3)	1,200円
ぎょうざ屋 (ぎょうざ定食)	750円
大隈重信記念館入場料	200円
「温故維新一美・技の SAGA」展	500円
ポストカード 3 枚	308円
計 2,958円 (残 22円)	

ちなみに維新博入場券の特典で

上林茶店	煎茶の提供
ぎょうざ屋	水餃子 1 個
大隈重信記念館入場料	100 円引
「温故維新一美・技の SAGA」展	100 円引

読者
プレゼント

ポストカード
3 枚セットを
1 名様にプレゼント!!
詳しくは P113 をご覧ください



メイン会場 (佐賀市城内エリア)



山口祥義 知事

入場券好評発売中!!

テーマ館	単館 当日	チケット3(3館共通) 当日
幕末維新記念館	800円	1,200円
葉隠みらい館	400円	
リアル弘道館	400円	

フリーパス券(3,000円)は、期間中
3館に何度でも入館可能!

裏面のスタンプラリーを完成させると、抽選で素敵な
賞品が当たります。

・障害者(介助者1名を含む)と、高校生以下は入場無料

・入場券、フリーパス券は県内外のコンビニや旅行代理店などで購入できます

チケット管理センター

TEL 0952(29)3671 FAX 0952(29)3695

受付時間 9:30~17:00(土日、祝日を除く)

※博覧会期間中は無休

肥前さが幕末維新博については

さが維新博

検索

こころざしの森 特設ステージイベント

- ①音楽フェス 4月28日(土)~30日(月・祝)
野外フェスや国内外で活躍する多彩なアーティストによるライブ
- ②かばい肉肉グルメまつり 5月3日(木・祝)~6日(日)
~薩長土肥のグルメ維新~
薩長土肥のグルメが集結! 4県の美味しい肉料理を食べくらべ
- ③第1回 市町の日「鳥栖市Day」 5月13日(日)
県内の市町が主役の「市町の日」
鳥栖市のご当地グルメやステージイベントを開催



佐賀市内のイベント

- ①映画「あるアトリエの100年」特別上映
5月3日(木・祝) 場所: 美術館ホール(佐賀市内)
- ②大隈祭
5月13日(日) 場所: 大隈重信記念館(佐賀市水ヶ江)
- ③徴古館(佐賀市松原)
現在開催中の「幕末明治の鍋島家 — 大名から侯爵へ」展が
展示スペースを拡大してフルオープン(全館1階・2階)で実施
- ④旧古賀銀行(佐賀市柳町)
「佐賀藩のすがた展—三支藩展—」
(4月16日~7月31日)
- ⑤旧福田家(佐賀市松原)
「明治の鹿島錦、佐賀錦」展
- ⑥旧牛島家(佐賀市柳町)
博覧会の公式ショップとして土産物等の物販
- ⑦石原良純氏によるトークショー
5月20日(日) 場所: 美術館ホール(佐賀市内)
先着順・要予約
※申込は維新博ホームページ

1868 2018

肥前さが
幕末維新博覧会

Hizen Saga Bakumatsu-Meiji
Restoration Expo

■美と技の150年

岡田と、その思いに十二分に答えようとした
女性作家たちの作品をじっくり味わってほし
い。

5月13日まで開催の「温故維新—美・技の
SAGA」展では幕末から現代までの佐賀
の美術の名品を「美」・「技」の2つのテーマ
で紹介している。「技」は博物館で展示。同
ゾーンは入場無料だ。佐賀藩が將軍家へ献上
した鍋島焼や鍋島緞通など、いわゆる「鍋島
ブランド」の美術工芸品をはじめ、幕末期か
ら明治期にかけて国内外で開催された各種博
覧会への出品作や、染色家として著名な鈴木
滋人の木版摺更紗など人間国宝の代表作を紹
介し、佐賀のものづくりの底力・奥深さを伝
える。中でも明治期の超絶技巧の作品が目を
ひく。「染付上絵菊梅樹文貼付透彫鳥籠(公益
財団法人 鍋島報効会蔵)」は、透かし彫りの繊
細さと梅の枝が張り付く大胆さが同居。海外
の人々を驚かせた技術と発想の豊かさを感じ
させる逸品だ。

美術館では「美」をテーマに展示。日本の
近代洋画をリードした百武兼行、久米桂一郎、
岡田三郎助をはじめ、今、まさに国内外で活
躍する吉岡徳仁や池田学までを紹介し、佐賀
と関わりの深い美術家の150年の歴史をそ
の代表作でたどる。美術館ゾーンは有料。先
ほどの「岡田三郎助と女性画家たち」とのセッ



池田学「誕生」 佐賀県立美術館蔵



「温故維新一美・技の SAGA」展 = 佐賀県立美術館



御厨純一「ニューギニア沖東方敵機動部隊強襲」
東京国立近代美術館蔵(無期限貸与作品)

温故維新 美・技の SAGA 展

~5月13日(日) ※会期中無休(会場) 佐賀県立美術館(3、4号展示室)、佐賀県
立博物館《開館時間》9時30分~18時《料金》一般・大学生 500円 ※共通券: 一般・
大学生 600円、高校生以下及び障害者手帳をお持ちの方とその介助者1名は無料

ト券が600円だが、維新博入場券を持って
いると500円(残り予算330円)に。
明治の洋画界をリードした佐賀人だが、戦
中・戦後の作家のオリジナリティあふれる世
界にも注目したい。御厨純一による「ニュー
ギニア沖東方敵機動部隊強襲」(東京国立近代
美術館蔵・無期限貸与作品)は戦争画だが、
躍動感ある画面が印象的だ。空撮も難しく、
ドローンなんてある訳がない時代に、こうい
う視点で描かれたことに驚く。シュールレア
リスムの古沢岩美やアバンギャルドの池田龍
雄、ミニマル・アートの古川吉重(古川松根
の子孫)。そして夭折の幻想画家・野村昭嘉。
人口わずか85万人の県でありながら、近代
から現代までのアート表現を網羅してしま
う美術家群像、これは本当にすごいことだ。
会場の最後には池田学の「誕生」が広い空
間に静かに佇んでいる。同作品はアクリルで
カバーされているので、以前の個展よりも近
くで鑑賞することができる。細かく見ればみ
るほど、新しい物語が湧き出してくる。
330円余ったので、ミュージアムショッ
プでポストカードを3枚を購入。残り22円と
なった。今回のぶらぶら歩き、朝から夕方ま
でで走行距離は約7キロ。パビリオンがほと
よい休憩所になるので、ゆっくりと楽しむこ
とができた。平日は県外のお客さんも少ない
のでじっくり見学できる。過ごしやすい季節、
ぜひ維新博を中心に佐賀の街をぶらぶら歩い
て、佐賀を自慢するネタを仕込もう!



染付上絵菊梅樹文貼付透彫鳥籠
公益財団法人 鍋島報効会蔵



「温故維新一美・技の SAGA」展 = 佐賀県立博物館